

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

2015年 新年のご挨拶



創立50周年

今年は、鈴鹿厚生病院創立 50 周年。大きな節目の一年となります。これもひとえに地域の皆さん・行政・関係者各位のお力添えと大変感謝いたしております。

今年の抱負

今後の国の施策としては、大きな流れとして在宅へ推進されていくでしょう。そこで ①救急 ②在宅 ③地域生活の支援が重要だと考えております。まず ①の救急についてですが、入院医療の質の向上や患者さんの特性に応じた病棟の機能分化を段階的に行ってきました。今年は、東3病棟（現社会復帰病

棟）を急性期の機能を持った病棟に転換する予定です。現在東1階が精神科救急病棟ですが、その救急対応をしなければならぬ精神症状を脱した患者さんを受け入れる病棟がありません。今までは、地域で急性な精神症状が出てしまった患者さんの要望に応え切れていなかったのですが、1つの病棟を療養から急性期へ機能を転換することで、より救急が受けやすくなります。また、②在宅③地域生活の支援については、在宅貢献の観点から、精神障がいをお持ちの方が、地域でいかに生活できるか、その点については、現状も訪問看護、アウトリーチ（訪問支援）等での見守りを行っているのですが、



三重県厚生連
鈴鹿厚生病院
院長 西浦 眞琴

やはり社会では仕事をしなければ生活できません。これまでは企業と病院との間で、企業の労務管理面におけるメンタルサポート支援を行ってまいりました。これからは障がい者が就労するにあたって、障がい者はもとより、企業の労務管理者との間の橋渡しの役割を担う、地域生活を応援する部隊を作りたいと考えております。それがひいては患者さんの地域での自活につながっていくだろうと考えております。当院の理念でもある「ささえあいともに生きる」をモットーに、今年も精神科医療のあるべき姿を求め、邁進してまいります。

心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は「こころ」に関するテーマに沿って
毎号連載していくコーナーです。

テーマ あいじょう

『愛情』の対は何かと人は問ふ。
それ『憎悪』なりと、人のいふ。
ああ、われひと尋(と)めゆきて、
『愛情』ありて、かへりきぬ。

『愛情』の対は何かと人は問ふ。
それ『無関心』なりと、人のいふ。
ああ、われひと尋(と)めゆきて、
『自我執』ありて、かへりきぬ。

『愛情』の対は何かと我は問ふ。
ああ、わがこころ尋(と)めゆきて、
対などなしと、とどまれり。

『愛情』ありて憂いあり。
すなわち、

『愛情』ありて『哀情』あり。

『愛情』は寛容にして無我であり、安閑恬静にして忘却である。
『哀情』は狭量にして我執であり、安居危思にして利他である。

すなわち、

『愛情』の実相たるは「合一」なり。

『哀情』の主因たるは「不安」なり。

斯くの如き『愛情』と『哀情』は表裏一体なれども、
そのこと故に「愛情極まりし時、哀情まさりけり」。

『愛情極まりて哀情多し』



院内散策

憩いの
POINT

今回は

秋の花フェスタで植樹した

桜です

遅咲きの桜なんです〜

寒空の中 咲いてました

いい感じですよ〜

みんなで 花見できる日が

楽しみだな〜



相談
4

地域医療センターの現場から

地域医療センターでは

病気や障がいによって起きてくるさまざまな問題や
心配事について相談に応じています。

相談

「障害年金と生活保護を受けて、一人暮らしをしています。年金の振込の前になるといつもお金がなくなってしまい、食事にも困ってしまいます。必要な物を買っているだけで、無駄遣いはしていないんだけど。請求書が届いたら支払わないといけないし・・・」

相談内容のまとめ

障害年金と生活保護を受給し、定期的な収入はあるAさん。ご自身で金銭管理をされていましたが、計画的にお金を使うことが苦手で、生活費が不足してしまうようです。又、さまざまな請求書が届くと、どうしたらいいかわからず混乱してしまうこともあるようです。

回答

Aさんの場合、日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）を利用することができのではないのでしょうか。日常生活自立支援事業とは、地域で生活されている高齢者や知的障がい者、精神障がい者などの方が安心して生活を送れるように、その方に応じた福祉サービスを利用するため支援や日常的なお金の管理などをサポートしてもらうものです。

支援の内容は、

- ①福祉サービスの利用援助（情報提供や利用手続き等のサポート）
- ②日常の金銭管理（預金の引き出しや公共料金等の支払いのサポート、計画的なお金の使い方についての相談等）
- ③書類等の預かりサービス（預金通帳、印鑑、不動産権利証等の保管）となります。

窓口は、権利擁護センター（社会福祉協議会）です。相談を受けると権利擁護センターの専門員がご本人と相談を重ねながら、ご本人の暮らしに合わせた計画をつくれます。支援の方法が決まれば、ご本人と契約を行い、実際の支援が始まります。計画に沿って、担当の生活支援員が定期的に自宅を訪問して支援が行われます。

作業療法 作品紹介

作品名「黒鳥」 折り紙細工

作者のコメント

他にも孔雀など玄関ロビーに飾ってあります。また見てください。



カブの豆乳スープ

カブの根には炭水化物の消化や分解を助ける酵素が豊富に含まれています。生で食べると弱った胃や食べ過ぎ・胸焼けに効果があり、加熱した場合でも、胃腸を温めて冷えによる腹痛を防ぐ効果があります。

葉の部分は根よりも豊富な栄養が集まっています。ビタミンA・B1・B2・C・カルシウム・鉄、さらに食物繊維もたっぷり含まれているので、これを捨てずに上手に利用しましょう。



材料 (3~4人分)

- カブ(葉付き) 小2個
- 玉ネギ 1/2個
- ベーコン 2枚
- バター 10g
- 豆乳(無調整) 300cc
- 水 200cc
- 固形コンソメ 2個
- 塩こしょう 少々



カブの 選び方

白く艶やかで、ずっしり重いもの。葉がみずみずしく、葉の付け根がきれいなもの。

作り方

- ① カブは葉の根元を1cmほど残して1/8のくし型に切り、皮をむく。葉は4cmのざく切りにしてきれいに洗い、さっと茹でる。玉ネギは薄切りし、ベーコンは1cm幅に切る。
- ② 鍋にバターを入れ、中火でベーコンと玉ネギを炒める。
- ③ 玉ネギがしんなりしたら、カブを入れ、サッと炒め合わせて水・コンソメを加える。
- ④ 沸騰したらカブの葉を入れ、豆乳を加え、再度沸騰したら、塩こしょうして火を止める。



スマイリー バトンリレー

vol
39

薬剤部

薬

剤部には薬の専門家として3人の薬剤師が常勤でいます。薬は病気の治療において欠かすことのできない大切な役割もっています。社会や家庭の中で“自分らしく”いるためにも、薬を理解して飲み続けなければなりません。その人の症状に合っているか？副作用は起こっていないか？飲み合わせは大丈夫か？等の確認をします。安心安全で満足な治療をしていただけることを目指していますので疑問や些細なことなど何でもお気軽にご相談ください。

しがおえ工食



ニックネーム:

本誌へのメッセージ:

今年の初日の出
西浦院長で決まり!!

きりとり

ほっとニュース

●外来診療担当医表

●外来待合時間の過ごし方



外来・受付等いつもお待たせしておりますがどのようにお過ごしですか？TV鑑賞・寝る・読書など人によりさまざまですが、病気や薬・生活に関する医療関連情報の詰ったパンフレットもありますので一度手に取ってみてください。治療の一助となれるかもしれません。またこれからの寒い時期にはブランケットを貸出しているのでお使いください。



		月	火	水	木	金
午前	初診	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
	再診	高山	中澤	林	西浦	鈴木
		中瀬	野村	金原	中瀬	
午後	再診	河合	西浦		高山	
			野村			

担当医は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

理念 ささえあい、ともに生きる

■ 基本方針 ■

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

編集後記

今号は「新年のご挨拶」などをお伝えしました。さて、広報委員のスタッフは「Live with すずか」の名のとおり、皆さんと一緒に創っていきたくと考えております。本誌へのご感想やご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp